

令和元年度 墨田区立 小梅小学校 経営報告書

令和2年3月13日

学 校 目 標	○深く考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子
目 指 す 学 校 像	小梅小学校に関わる人にとって「魅力ある学校」を創造する ○子供が、自分の成長を感じる学校 ○教職員が、生きがい・行きがいを感じる学校 ○保護者が、安心・安全に思い通わせたい学校 ○地域が、誇りに思える学校
目 指 す 子 供 像	○よい習慣（生活・学習・運動）を身につけた子
目 指 す 教 師 像	◎児童とともに「明るく元気で爽やかに」毎日を送ることができる 小梅小学校の 教師集団 をめざす ① 45 分間の授業を毎時間大切にし、今日を充実して生きる 今日師 ② 児童の心により添い、思いを受け止め心を開き、気持ちを通じ合わせられる 響師 ③ 毎日の児童の成長を、地域住民・保護者とともに喜び、ともに歩み続ける 共師 ④ 教育公務員として信念をもち、責任ある行動を取り、高く強い志をもった 強師 ⑤ 学校運営を常に自己の課題として受け止め、組織の一員として力を合わせられる 協師 ⑥ 1日1日の指導を振り返り、確実に自己を高め努力し、児童の手本となれる 鏡師 児童・保護者・地域住民から慕われ尊敬される 教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、子供に確かな学力を育てるために、分かりやすい授業の実施に努めているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎・基本の確実な習得」を図るには繰り返し学習が必要である。学力向上タイム、振り返り期間（9月・3月）は学力向上のための重要な取組と捉え、全クラスで実施する。 教員の資質能力の向上を目指した校内研究を一層充実させる。 学力向上の取組（校長講話作文、俳句作り、朝学習、家庭学習）は、来年度も丁寧に取り組んでいく。 「小梅学習スタンダード7」の徹底を図る。 	B	B
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーター・特別支援教育専門員・巡回指導員・SC との情報交換・協議を密に行い、個に応じた適切な指導ができるようにする。 特別支援委員会を年3回、特別支援教育の研修を充実させ、教職員の資質能力の向上を図る。 毎週金曜日を定例会と位置づけ、SC、特別支援教室専門員を交えて情報交換を行うとともに、同一歩調での指導を徹底す 	A	A

様式 4

			る。		
	学校は、子供の将来の自立に向けた進路指導・相談活動に取り組んでいるか。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・こども園・保育所から中学校までを見通した指導や教員同士の交流・連携の充実を図る。 ・年間通じて、夢や目標をもつことの大切さを講話等で伝えたり、実現のために努力している子供を褒め称えたりして自尊感情や自己肯定感を醸成していく。 	C	B
	学校は、教員の指導力・授業力を高めるために組織的に取り組んでいるか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究（研究授業 4 回）、授業観察（3 回）を通して、授業力を高めるための研究や指導を行っていく。 ・計画的な OJT（年 10 回以上実施）や指導教諭の授業参観、区小研を通して指導力の向上に努める。 	B	B
	道徳授業の充実に努めているか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間 35 時間の道徳の時間を大切に指導していく。 	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	学力向上の取組を全校で取り組んでいることが学力向上に繋がっている。特別な支援を必要とする子供に対しての組織的な支援は引き続き丁寧に行っていただきたい。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について	
生活指導等	学校は、子供の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「トラブルの原因や背景等児童からの聞き取りや、児童相互の言い分を正確に聞き取ること」「今後の学校の対応の仕方など保護者に納得のいく説明を行うこと」以上のことを学年（複数）で確実に対応する。 困難な課題については管理職に相談し、その日の内に保護者に伝えることを原則として、迅速に対応していく。 ・校長講話、学校だより、いじめ防止授業地域公開講座等、保護者向けの「いじめ防止に向けた学校の取り組み」を年間 3 回以上発信し、いじめに対する取り組みの理解・協力を得る。 	A	B	
	学校は、子供が基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係を作るための心の教育を行っているか。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣「4つのあ（挨拶・集まり・後片付け・安全）」の確立のために、全教職員が同一歩調で確実に指導していく。 ・人間関係構築のため、縦割り班活動や異年齢交流の活動の機会を意図的に増やしていく。 	C	B	
	学校は、子供の安全を確保するための取組を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権プログラム」「安全プログラム」「いじめ防止プログラム」「使命を全うする」を随時活用し、組織的対応を原則としていく。 ・年間 11 回の避難訓練を行うとともに、緊張感をもって取り組めるようにする。 ・朝の会・帰りの会での「一声指導」を実施していく。 ・自然災害が多発する日本の現状を踏まえ、「自分の命は自分で守る」体験を、地域・PTA と連携をとり、全校で訓練を実施する。 	A	A	
	学校は、子供や保護者からの意見や要望を把握し、教育活動の点検や改善に役立っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・前後期 2 回の保護者からの学校評価を受けて、肯定的な項目はさらに強化できるように、否定的な項目に関しては解決策を講じて、保護者会で説明していく。 ・保護者からの自由記述への丁寧な回答に努める。 	A	A	
		学校関係者評価委員会の意見等	「安全・安心」を踏まえた経営方針が徹底されている。来年度は、地域・保護者と連携した防災教育の推進に努めてほしい。			

様式 4

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	学校は、管理職の経営方針に基づき、組織的な教育活動・学校運営を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 「よい生活の習慣化」「安心・安全」を基調とした学校運営を、教職員間で共通理解を図りながら推進していく。 様々な機会を繰り返して、教職員・保護者・地域に対し経営方針を周知していくようにする。 	A	A
	学校は、子供の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価を適切に行っているか。	B	<p>【学力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「各教科における思考力・表現力の育成～主体的・対話的な学びを通して深い学びにつなぐ～」をテーマに研究に取り組んだ。研究の成果が学力向上に繋がった。他教科でも、主体的で対話的な学びの実現に向けての授業改善に努めていく。 <p>【体力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果を分析し、投力に関しては体力の向上がみられた。握力に関しては課題がある。課題を意識し、継続的な「一学級一取組」「体力向上タイム」の充実に努める。 	B	B
	学校には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 教員の ICT を活用した授業展開も日常化している。一方 ICT 機器の老朽化等の問題が出てきている。整備に必要な予算が必要。タブレットを活用した授業やプログラミング学習の充実は来年度の課題とする。 図書館地域ボランティア「うめのみ」・図書室整備ボランティアが定期的に活動し、環境は整っている。「本好き」な児童は多い。 	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	「よい生活の習慣化」「安心・安全」に向けた具体的な策を講じて、来年も重点的に取り組んでいただきたい。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく伝えているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 「学校教育アンケート」の回収率は 88% と高く、保護者の学校に対する、関心の高さ・期待感が伺われた。真摯に受け止めていきたい。一方、「分からない」と回答した項目に関しては、学校からの取組の様子を理解してもらって発信を工夫していく。 ホームページの更新・学校だより・保護者会の内容の充実・正門掲示板の更新等、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく発信するための工夫を更に行っていく。 緊急メールを適度に配信し、学校情報・児童の安全情報を保護者に迅速正確に伝えることができた。保護者からの苦情・要望は無かった。 	B	B
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得て教育活動を進めているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 教員の働き方改革の推進のため、留守番電話の導入や教育課程外の対外的なスポーツイベントの取組縮小化に関しては、保護者の理解・協力が得られたと考えている。協力・理解をいただいていることに感謝を伝えていく。 夏の町会ラジオ体操、墨中育成委員会盆踊り、地域祭り、自校の小梅まつり等には、教員が負担にならない程度に役割分担を行い計画的に参加してもらおう。 	B	B

様式 4

	学校関係者評価委員会の意見等	学校はよくやっていると思う。引き続き子供のために取り組んでいただきたい。
--	----------------	--------------------------------------

2 令和元年度学校評価のまとめ

学校に対する信頼はかなり厚く、その信頼に応えられる教育を推進していかなければならない。子供・保護者と地域・教職員ともに「三方よし」の評価を目指して、開かれた学校と家庭・地域との連携を大切にしながら質の高い教育の推進に邁進していきたい。

以上の通り報告いたします。

墨田区立 _____ 学校 校長 荒井 令子 公印